

鳳仙

発行
桐生山鳳仙寺
桐生市梅田町一丁目五八
電話〇二七三三二一〇一七

希望を持って お正月を迎えましょう。

年年歳歳 花相い似たり
ねんねんさいさい
はなあいにたり

歳歳年年 人同じからず
さいさいねんねん
ひとおなじからず

これは中国の詩「白塔を悲しむ翁に代わりて」と言つ詩の一節です。劉廷芝

毎年、お正月をお迎えすると、門松を立て、お雑煮をいただいてお祝いをいたします。



羊は干支では十二支の八番目「未」にあてられた。方位は南から西へ三十度。南南西。時刻は午後二時ごろ、羊はその昔、日本にはいませんでした。日本には百済からラクダなどと一緒に羊二頭が貢ぎ物とし



「今年の私の夢は、こういうことです。私も一生懸命に努力をいたします。ご先祖様、どうぞ応援してください。」と、ご先祖様のご加護と天地の恵みに感謝しますと、体の中から元気がわきあがって来ます。さあ！今年こそ良い一年でありますようにお祈り致します。

「今年私の夢は、こういうことです。私も一生懸命に努力をいたします。ご先祖様、どうぞ応援してください。」と、ご先祖様のご加護と天地の恵みに感謝しますと、体の中から元気がわきあがって来ます。さあ！今年こそ良い一年でありますようにお祈り致します。

こぼれ先の杖

十二月三十一日「除夜の鐘」十一時より恒例の「甘酒」の接待をいたします。古いお札や縁起物がありましたらお持ち下さい。前庭にておたき上げ致します。

初厄除け

元旦〇時より 本堂にて、本年の厄を消除する、初厄除けの祈願を致します。

一日より五日まで厄除けを行います。また四日は大祭です。九時より一時間おきに祈禱を致します。

鳳仙婦人会だより

鳳仙婦人会では、毎年恒例の鳳仙寺本堂の、大掃除を平成十四年十二月二十日(金)に行いました。当日役員さんや会員の皆様二十三名参加し、和気あいあいのう



ちに、本堂内外がピカピカに磨かれ新年の準備が整いました。

新しい年には厄除け

皆様の御参りをお待ちしております。インターネットでも、電話でも申込みを受け付けています。来られない方は送ります。

<http://www.hosenji.or.jp>

1月1日から5日まで

開運 厄除け 大祭

除夜の鐘

桐生山鳳仙寺

群馬県桐生市梅田町1-58 TEL. (0277) 32-1177

	前厄	本厄	後厄
男の大厄42才	昭和36年生	37年生	38年生
女の小厄37才	41年	42年	43年
女の大厄33才	45年	46年	47年
男25才の厄年	53年	54年	55年
女19才の厄年	59年	60年	61年
幼児4才の厄年	平成11年	12年	13年
男女61才の厄年	昭和16年	17年	18年

13才詣り・男女平成3年生れ



御詠歌だより

毎月第一、第四木曜日週二回、一時から三時まで鳳仙寺石梁閣にてお稽古をしております。緊張した中にもゆっくりとした時が流れます。その後の茶話会は本当ににぎやかです。始めの方は、お寺まで...

謹賀新年

- 世話人 (会計) 池田伊佐男
- 総代 小此木秀夫
- 筆頭総代 下山晴夫
- 住職 坪井良廣
- 東洋一 桑原金吉
- 天笠勝美 小林詔一
- 石原信子 五味田博
- 板井政夫 清水義博
- 板倉光夫 下山直二郎
- 岩崎信作 下山博康
- 岩崎親道 下盛治
- 内野正章 津久井裕治
- 梅沢守夫 都筑治雄
- 大里政由 長沢吉太郎
- 岡村栄三 中島正雄
- 小川廣夫 長谷川孝元
- 金丸由太郎 羽田野孝次郎
- 金子清 平方敏郎
- 金子宗吉 前原高男
- 金子恒雄 前原高男
- 木島富美雄 峯崎一男
- 桐生高治 山鹿精一
- 桑子三喜男 (あいっえお順)

鳳仙婦人会秋の研修旅行

十一月七日、7時に桐生を出発し信州の鎌倉、別所温泉へ。昨年の鎌倉は大雨でしたが、今回は素晴しいお天気。車窓からのながめは、最高でした。雲におおわれた浅間山、そしてまわりの山々の紅葉。心が洗われる思いです。

常楽寺、北向観音、安楽寺等それぞれゆつくりと散策。そしてお昼には、きのこ汁とまつたけごはん?をいただきました。午後からは、信濃デッサン館へ。若くして天折した天才画家達らの作品を集めた小さな美術館を皆さん熱心に見てまわりました。



会34名のバス一行は、広げよう、信じよう、美しい心のふれあい。のスローガンの通り楽しい秋の一日研修旅行を楽しみました。

二祖国師の点検

曹洞宗を開いたのは、言うまでもなく高祖大師道元禅師です。道元禅師には、ひとりのとても優秀なお弟子さんがついておられました。二祖国師、懐装禅師です。懐装禅師は持者として常に道元禅師に付き従い、お仕えしていました。師匠である道元禅師の教えをよく理解し、その教えをまとめた『正法眼蔵随聞記』という有名な著書もあります。永平寺を開くにあたって、懐装禅師は道

元禅師を助け、ともに力を出し切って建立を達成しました。建長五年(一一五三)、師の道元禅師が亡くなりました。命のあるものはすべていつかは滅ぶと知りながらも、懐装禅師の涙は止まりませんでした。懐装禅師は道元禅師のあとを継ぎ、二祖国師として後進の指導にあたり



高祖道元禅師頂相

ることになりました。懐装禅師が永平寺二世となつて以来、永平寺の承陽殿入り口の扉はいつも少し開かれています。なぜならば、真夜中の子刻になると、懐装禅師が毎晩必ず道元禅師の廟所を点検、見回りをするからです。持者としてお仕えして

いたときの気持ちを忘れることができなかったのでしょうか。その習慣は、およそ七百五十年を経た今でも引き継がれています。また、廟所の点検、見回りは現在も役寮が行っています。懐装禅師とが合わないように、子刻は避けられていると言います。

不祝儀袋に「御霊前」と「御仏前」とあるけれど、どっちを使えばいいの？



今や不祝儀袋はコンビニや駅の売店で売っており、いざという時すぐ手に入りますが、不祝儀袋のある棚の前で、何種類か手にとって悩んでいる方が多いようです。覚えておいて下さい。葬儀の時お香典を入れるために使うのが「御霊前」と書いてある袋。そして葬儀後の七日忌(四十九日)・百日忌・一周忌・三回忌などの年回の「法事」の志は、「御仏前」と書いてある袋を用いるのが一般的です。

「さで、なぜ「霊」と「仏」とに区別したのでしょ。一説によると、お葬式でお坊さんから戒名を授かり、引導を渡されるまでは、まだ死者は霊として迷っているという考えから、葬儀の終わらないうちは「御霊前」と書くことになったとのこと。宗派により異なることもあり、菩提寺の指導をいただいで下さい。

年回法要準備一覧

法要で御用意頂くものは下記の通りです。

御位牌	御遺影	3回忌	以後は、必ず必要	御本堂	御本堂	御供物	果物、
用生花	対	お花代	包み頂いても結構	御本堂	お塔婆	お塔婆	なるべく早めにお申
墓参用生花	対	墓参用お線香	墓参用お団子	3回忌以後は、必ず必要ではありません	参加者人数と六地藏様分をご用意下さい	お塔婆	なるべく早めにお申

平成十五年度年回表

一周忌	平成十四年
三回忌	平成十三年
七回忌	平成九年
十三回忌	平成三年
十七回忌	昭和六十二年
二十二回忌	昭和五十六年
二十五回忌	昭和五十四年
二十七回忌	昭和五十二年
三十三回忌	昭和四十六年
三十七回忌	昭和四十二年
四十三回忌	昭和三十六年
四十七回忌	昭和三十二年
五十回忌	昭和二十九年
百回忌	明治三十七年

日曜・祝日の御法事お申込みはお早めをお願いします。

お塔婆料は、1本につき3千円です。

申込は、FAXが便利です。
FAX(0277) 4016000

お布施

ご命日や月参りなどでお塔婆のみご用意される方は、お塔婆代に御回向料を添えて下さい。

その他、ご不明のこと
がございましたら遠慮なくおたずね下さい。
電話(0277) 3211177

鳳仙寺

